佐々木徹也君 角  $\coprod$ 勤 君

作曲 作歌

、昭和六十年寮歌

芳香馨、 沈黙の杜に春来告げる し辛夷の花よ

純白き残雪未だ消えやらず

されど恵迪此処に在り 郷愁胸に充満つるとも 永き寒冬偲ばるる哉

我故知らず 涙 流しぬ 水恋鳥の哀しき聲に

されど憧憬恵迪に在り 哀愁胸に充満つるとも
めいしゅうむね 樹々色づきてはや盛夏逝きぬきょ き夏と認識りはすれども

> 何望むなく彷徨ひゆける 夕細道は幽か続きてゆうほそみち かそ つづ 紅雲流るる黄昏どきに

されど青春恵迪に在り 愁心胸に充満つるとも この現身を悲哀しみにけり

我に向かいて天狼星光るやれ 数多群なす星座の中にあまたむれ 天指す枝柯に樹 氷咲く 寂寥胸に充満つるとも 雪舞ひ踊る白銀の世よゆきま おど しろがね よ

されど経営恵迪に在り

追憶胸に充満つるともついおくむね 限れる生を燃やし尽さむかぎ 其は人の世の眞理なれども 弛むことなく唯時は逝きたゆ 生きとし生けるものは去りゆく Ŧi

されど恵迪永遠に在れ